

宮の材料の内在的な意義

聖書：列王上 5:15-18, 6:7, 9-10, 15-16, 23, 31-34, 36, 7:14-15, 21

- I. 神の建造の材料となるために、わたしたちはキリストの死（いとすぎの木によって表徴される）、キリストの復活（香柏の木によって表徴される）、その霊としてのキリスト（オリブの木によって表徴される）を経験する必要があります：
- A. 十字架につけられ復活したキリストは、イエス・キリストの、すべてを含む霊であり、また手順を得た三一の神の臨在であって、召会を建造するための材料の実際です。この召会は神の宮、すなわち、キリストの拡大と拡張です——ピリピ 1:19-21 前半, I コリント 3:9, 12 前半, 16-17。
- B. わたしたちは、十字架につけられ復活したその霊としてのキリストに、彼ご自身をわたしたちの存在の中へと建造し込んでいただく必要があります。それによってわたしたちはキリストの最も満ち満ちた享受を持ち、神のさまざまな恵み（命の豊富な供給）の良い家令となって、神の宮としての召会を建造することができます——エペソ 3:2, 16-17, I ペテロ 4:10-11。
- II. いとすぎの木は、十字架につけられたキリストを表徴します——列王上 6:15 後半, 34. 参照、創 6:14：
- A. 古代、ユダヤ人は墓の上にとすぎの木を植えました。ですから、いとすぎの木は、キリストの死における人性、十字架につけられたイエスを表徴します——I コリント 2:2。
- B. 宮の扉は、いとすぎの木で作られ、ケルビムとしゅろの木が彫られていました——列王上 6:34-35. 参照、エゼキエル 41:18-20：
1. ケルビムは、主の栄光が被造物の上に現されることを表徴します（エゼキエル 10:18, ヘブル 9:5）。しゅろの木は、キリストの勝利とキリストの永続し永存する力を表徴します（エゼキエル 40:16, 啓 7:9）。
 2. しゅろの木とケルビムがいとすぎの木の扉に彫られたことは、キリストの勝利と主の栄光が苦難を通してわたしたちの存在の中へと「彫られた」ことを表徴します——使徒 16:7, ピリピ 3:10, II コリント 4:10-12。
- III. 香柏の木は、復活したキリストを表徴します——列王上 6:9-10, 15-16, 36：
- A. 香柏の木はレバノンの山の上に生きていました。こういうわけで、香柏の木は復活におけるキリストの人性、復活したキリストを表徴します——詩 104:16, 雅 4:8。
- B. 復活し昇天したキリストは王として、ダビデの家から出た威厳のある壮大な香柏です——エゼキエル 17:22-23, ローマ 1:3-4, 使徒 2:22-24, 32-36, ヘブル 2:9。
- C. わたしたちは、レバノンの香柏の木のように、キリストの中へとわたしたちの根を張る者となる必要があります。それによって、わたしたちはエホバの家に植えられ、わたしたちの神の大庭で栄え、命において成長し、年老いても実を結び、生気に満ち、青々となります——ホセア 14:5-9, 詩 92:12-14, 列王下 19:30。

D. 召会は、キリストの復活の力の貯蔵庫また倉庫です。この力はキリストの中で働いた時、彼をかしらとしました。この力はわたしたちの中で働く時、わたしたちを彼のからだとします——エペソ 1:19-23. ローマ 8:2, 11. 12:1-2. ピリピ 3:10。

IV. オリーブの木は、造り変えられた、命を与える霊としてのキリストを表徴します——列王上 6:23, 31-33. I コリント 15:45 後半 :

A. オリーブ油は、神の霊を予表します。ですから、オリーブの木は、神の霊の中のキリストの人性、すなわち油塗られたキリストを表徴します。彼はまた、油塗りとしての複合の霊でもあります——ヘブル 1:9. II コリント 1:21. I ヨハネ 2:20, 27. 出 30:25, 30。

B. わたしたちはキリストの枝々であり、栽培されたオリーブの木としての彼の中へと接ぎ木されており、彼を享受しています (ローマ 11:17, 24)。命を与える霊は、天的なオリーブの木としてのキリストの命の液です。もしわたしたちが天的なオリーブの木の豊かな養分また樹液としてのキリストの豊富にあずかることを願うなら、わたしたちはキリストの命の液としての命を与える霊と接触する必要があります (ルカ 23:31. 参照、詩 92:13-14. 36:8-9) :

1. わたしたちとキリストとの接ぎ木は、わたしたちの霊の中で起こったので、わたしたちは絶えず霊を活用する必要があります。わたしたちは「おお、主よ、おお、主よ」と言って主を呼び求めるとき、霊を活用し、直ちに命を与える霊としての主にあずかります——ローマ 8:16. I コリント 6:17. ローマ 10:9-13。
2. キリストの豊富を享受するもう一つの方法は、神の御言を読み、あらゆる言葉にアーメンと言うことです。この事によって、わたしたちは霊を活用し、主と接触し、彼を享受し、豊かな養分としてのすべてを含む霊にあずかります——詩 106:48. ネヘミヤ 8:6. II コリント 1:20. 啓 19:4. エペソ 6:17-18。

C. わたしたちは、わたしたちが「自然の性質に反して」、キリストの中へと接ぎ木されたことを見る必要があります。「自然の性質に反して」とは、「自己に反して」を意味します——ローマ 11:24 :

1. わたしたちの古い性質に属するものはすべて、主の性質に相反します。わたしたちの性質は、罪深い性質であり、主の性質は、神聖で、霊的で、聖なる性質です——ガラテヤ 5:16-17. II ペテロ 1:4。
2. オリーブの木としてのキリストと彼の豊富にあずかるために、わたしたちは野生の枝としてのわたしたちの古い背景、古い歴史、古い生活、古い習慣、古い習わしから完全に切り離される必要があります——ローマ 11:24. 参照、エペソ 4:22-24。
3. わたしたちの古い生活様式から切り離されることを経験して、キリストの中へと接ぎ木される経験を享受するために、わたしたちは霊を活用して、彼の御名を呼び求め、彼の御言を祈り読みする必要があります——ローマ 10:6-8. エペソ 6:17-18。

D. ローマ第 11 章が啓示しているのは、わたしたちがオリーブの木としてのキリストの枝々であって (17, 24 節)、「オリーブの実」を結び、人を和らげる油 (聖霊を表徴する) を生み出すということです。ヨハネ第 15 章が啓示しているのは、わたしたちがぶど

うの木としてのキリストの枝々であって（5節）、「ぶどうの実」を結び、人を活気づけるぶどう酒（神聖な命を表徴する）を生み出すということです。そしてルカ第10章で、良きサマリア人は死にかけている人の傷に油とぶどう酒を注ぎました（33-34節）：

1. 油とぶどう酒は合わさると、人のいやしとなります。わたしたちは主を呼び求め、主の御言を祈り読みすることによって、主の中に住めば住むほど、ますます「オリブの実」と「ぶどうの実」を結んで、油とぶどう酒を生み出して、内側で傷つき落ち込み失望している人の中へと注ぎます。
2. オリブの木からできた油は、神と人を尊ぶために用いられました（士9:8-9）。これが表徴するのは、霊によって歩く人は神を尊び（ガラテヤ5:16, 25）、その霊を供給する人は人を尊ぶということです（Ⅱコリント3:6, 8. ピリピ3:3）。
3. ぶどうの木からできたぶどう酒は、神と人を喜ばせるために用いられました（士9:12-13）。これが表徴するのは、自分を犠牲にし人を活気づける命としてキリストを享受する人たちが、神を喜ばせるということと（マタイ9:17）、自分を犠牲にし人を活気づける命としてキリストを供給する人たちが、人を喜ばせるということです（Ⅱコリント3:6. ピリピ2:17. Ⅱテモテ4:6）。

V. 宮の柱は、青銅で建てられました。青銅は、神の裁きを表徴します——列王上7:14-15, 21. 啓3:12. 21:22 :

- A. 聖書で柱は、神の建造のしるし、証しであり、神の建造は、からだの生活を実行することにおける造り変えを通してです——創28:22 前半. 列王上7:15-22. ガラテヤ2:9. Ⅰテモテ3:15. 啓3:12. ローマ12:2. エペソ4:11-12。
- B. 神に役立つ人は、絶えず神の裁き（青銅）の下におり、自分が肉の中の人であって、何の価値もなく、ただ死と葬りにふさわしいことを認識しています——詩51:5. 出4:1-9. ローマ7:18. マタイ3:16-17 :
 1. 信者たちの間の分裂と実を結ばないことの原因は、青銅がなく、神の裁きがないことです。それどころか、高慢、自慢、自己弁護、自己義認、自己是認、自己弁解、自己を義とすることがあり、人を牧養し捜すのではなく、人を罪定めし規制しています——マタイ16:24. ルカ9:54-55。
 2. わたしたちが青銅の人としての主を愛し、彼を経験するとき（エゼキエル40:3）、彼はわたしたちの特別な愛、無限の忍耐、比類のない信実、絶対的なへりくだり、最高の純粋さ、至高の聖と義、わたしたちの公明正大となります（ピリピ4:5-8）。
- C. 宮の柱の柱頭には、「格子細工の網 [格子のような] と鎖細工の飾りひも」がありました。これらは錯綜する複雑な状況を表徴し、その中で神の建造の柱である人たちは生き、責任を担っています（列王上7:17. Ⅱコリント1:12. 4:7-8）。柱頭の頂にはゆりとざくろがありました（列王上7:18-20） :
 1. ゆりが表徴するのは、神にある信仰の生活、すなわち、わたしたちが何であるかによってではなく、神がわたしたちにとって何であるかによって生きる生活です。青銅は

「わたしではない」を意味し、ゆりは「キリスト」を意味します——雅 2:1-2. マタイ 6:28, 30. II コリント 5:4. ガラテヤ 2:20。

2. 柱頭の飾りひもの上のざくろは、命としてのキリストの豊富の豊満、満ちあふれと美しさ、表現を表徴します——ピリピ 1:19-21 前半. エペソ 1:22-23. 3:19。
3. 格子細工の除去することと鎖細工の制限を通して、わたしたちは神に信頼する純粋で単一な生活をして、命における神の建造のために、キリストの神聖な命の豊富を表現することができます。

VI. 宮の石は、造り換えにおけるキリストの人性、造り換えを経過したキリストを表徴します——列王上 5:15-18. 6:7, 36. 歴代上 29:2. 歴代下 3:6 :

- A. 神として、キリストは肉体と成ったときに人の肉体を着ました。彼は肉体の中の人、旧創造における人と成っていたので、彼の人の部分において造り換えられる必要がありました——ローマ 1:3-4。
- B. そのような造り換えられたキリストは、今や神の建造の生ける石、土台の石、隅の石、頂石です——I ペテロ 2:4. イザヤ 28:16. I コリント 3:11. エペソ 2:20. I ペテロ 2:6. ゼカリヤ 4:7. 3:9. 啓 5:6. 4:3. 21:11。
- C. 宮の石はまた、石としてのキリストによって造り換えられた、キリストにある信者たちを表徴します——マタイ 16:18. ヨハネ 1:42. I ペテロ 2:4-7. 啓 21:11, 14, 18-21. 参照、ダニエル 2:34-35, 44-45。
- D. 新約は生ける石について語り (I ペテロ 2:5)、旧約は切られた石について語ります (列王上 5:15, 17-18. 6:7)。召会の建造のために用いられる石は、内側で生きていなければならない、外側で切られ (対処され) なければなりません (II コリント 4:16) :
 1. 召会の中で、ある兄弟姉妹は、採石場から切られたばかりの、鋭い角が多くある、「荒い」石にたとえることができます。人は彼らと接触すると、傷つけられ、心地よくない感覚を持ちます。
 2. 彼らは十分に安定していないので、建造されることができず、他の人たちと組み合わせられたり奉仕したりすることができず、他の人たちと共に戦うことができず、他の人たちと共に契約の箱を担ぐことができません。

VII. 神の宮としての召会を建造するための真のクリスチャンの命は、十字架につけられ復活したキリストの命です。彼は命を与える霊としてわたしたちの存在の中へと建造され、それによってわたしたちは彼の復活の力によって彼の死に同形化されて、日ごとに新しくされ、栄光から栄光へと造り換えられて、召会の中に彼の栄光があるようにします——ピリピ 3:10. II コリント 3:18. 4:16-18. エペソ 3:21。